

「2024年度香港中文大学サマースクール派遣参加報告書」

京都大学経済学部 3年 山田 彩乃

①学習効果について

私は将来的に中国に留学してみたいという夢があり、中国語を身に付けることにとっても興味があった。しかし、大学の授業で第二外国語として中国語を学んでいたものの、自らの学習において文法にフォーカスしすぎてリスニングやスピーキングは初学者レベルであった。人とコミュニケーションをとるうえで一番大切な二技能の能力が極めて低い自覚があり、こうした技能を中心に能力を高めたいという目標を掲げていた。また、発音が間違っていることが恥ずかしく中国語で会話ができたことがなかったため、授業中は恥をかくことを恐れず積極的に中国語のスピーキングを練習するという目標を掲げていた。

この学習目標に関して大いに達成できたと考えている。もともとリスニングに自信がなかった私は、当初ビギナークラスに参加する予定だった。しかし、一度しかない機会なので少しでも多くスキルアップできるクラスにチャレンジしてみたいと考え、インターメディエイトクラスに参加することに決めた。このクラスでは、先生が基本的に普通話を用いて授業をしてくださり、理解しにくいところは英語を使って説明してくださったので授業についていくことが出来たしリスニングの練習もできてとても良かった。さらに、授業中は生徒が発言したり会話練習をする機会を多く設けてられていて、目標だった会話やリスニング等の能力をあげるということが大いに達成できたと思う。さらに、二日に一回ほど行われる語彙のテストに毎回真剣に取り組んだ結果確実に使える単語数が増えたことを実感でき授業中に何かわからないことが出てきたときにそのままにせず積極的に質問するという意識も意識し、疑問点を解決しながら積極的に発音、リスニング練習ができたと思う。

②海外での経験

海外での経験に関して私が掲げていた目標は香港の文化をよく理解することと、中国内地との比較をすることである。三週間の滞在で香港の文化を大いに体験できたと思う。授業以外の課外活動では、香港中文大学の方が企画してくださったツアーに参加して自分一人ではいけないような香港の穴場に連れて行ってもらえたり、個人旅行では経験できないようなことをたくさん経験できて、香港の様々な顔を見ることが出来た。さらに、週末に友人と深圳に旅行に行ったが、これは香港と中国内地を比較する良い機会となった。香港は教会などが多く、またケーキ屋さんやクッキー屋さんなどが多く見られ、西欧の文化が残っていることが見受けられた。一方深圳ではオフィス街の発展がすさまじく、目を見張るような大都市だったが香港のような西欧の文化はあまり見られなかった。こうして香港の文化を多く理解できたことに加え、中国の内地との比較もすることが出来たので当初の目標は大いに達成されたと考える。

③プログラム内容

大学に到着してすぐからキャンパスツアーが開催され、生活に必要なことを教えてくれたり、オリエンテーションでも大学生活のことだけでなく香港の国全般の情報を共有してくれてありがたかった。さらに、二回開催されたツアーではバスに乗って香港の観光地を巡ることが出来、普通の旅行ではできないような経験をたくさんできて良かった。ツアーを通して他の国や大学からきた学生とも打ち解けることが出来てとても楽しい思い出になった。

④進路への影響について

もともと中国語に興味があったので中国に留学してみたいと考えていたが、このサマースクールに参加するまで遠い目標であるように感じ、中国語の勉強方法もあまりわからなかった。しかしこのプログラムに参加し、先生が帰国後の勉強方法についても指導してくださったり、各国の中国語を学ぶ人と知り合うことで大きな刺激を受け、中国に留学してみたいという気持ちが高まった。さらには将来も中国と日本の懸け橋にな

<事務局使用欄>受付番号:

-

れるような仕事をしてみたいと考えるようになった。